アフターコロナ時代の
まちづくりと都市・地域デザイン

都市は、成長から成熟、そして縮小時代に入りました。
人口減少、地域経済の衰退、超高齢社会、頻発する大規模災害、そして、新型コロナウイルス感染症の拡大。
社会情勢が大きく変化する中、都市計画や地域デザインも、新しい時代の対応が求められています。
住まい、防災、移住、公園、道路、景観、コミュニティなどの最新の動向を紹介し、未来のまちづくりを見据えた展望についてお話しします。

阿部 俊彦（立命館大学 理工学部 建築都市デザイン学科 准教授）

立命館大学 理工学部 建築都市デザイン学科

准教授　阿 部 俊 彦

一級建築士、技術士（都市及び地方計画）、博士（工学）早稲田大学

経歴

2000 早稲田大学理工学部建築学科卒業（村野賞）
2002 早稲田大学大学院理工学研究科修了（早稲田建築賞）
2002 設計事務所勤務
2008 早稲田大学 都市・地域研究所 客員主任研究員、非常勤講師
2008 LLC住まい・まちづくりデザインワークス一級建築士事務所を共同設立
2020 より現職

受賞

日本都市計画学会 計画設計賞・論文奨励賞、都市住宅学会長賞 、これからの建築士賞、
グッドデザイン賞(2017, 2019)、日本建築学会 作品選集2020入選、他

国の主導で、東日本大震災の復興事業（＝公共事業）は進められた

その象徴としての防潮堤。市民が反対した地区もあったが、その多くが計画通りに作られた。
東日本大震災の復興事業で整備された防潮堤の事業費は、約1.4兆円（2015年度末現在）

私は、2011年からこれまでの１０年間、宮城県気仙沼市の復興まちづくりに関わってきました。

その中心である内湾地区は、全国的にも有名な港町

海と山とまちが一体となった景観が特徴的。８月には、太鼓台が湾を廻る「みなと祭り」が開催されます。

内湾地区も津波により被災したが、比較的被害は少なかった。

撮影：大井憲一

震災前から、防潮堤の無いまち。しかし、木造の建物は流されましたが、その他の建物は残った。
海の見える最前列で亡くなった人はいない。（気仙沼市の死者・行方不明者数は 1373名）

内湾地区には、高さ５mの防潮堤の計画が示され、市民が反対

宛先：安倍晋三

このままでは日本国中の海岸が壁で囲まれてしまう！？

内湾防潮堤

県と市民平行線

知事 計画変更を否定

地元「ありきで議論かみあわない」

防潮堤の整備計画が停滞している気仙沼市で6日、村井嘉浩知事と市民代表の意見交換会が開かれた。内湾地区を中心に意見交換し、村井知事が計画高の変更や浮上式防潮堤の導入についてあらためて否定した上で、年内の合意生成に向けて努力する考えを示した一方、出席した市民は「防潮堤ありきで議論がかみ合わない」と反発。3時間に及んだ話し合いは平行線のまま終了した。

村井知事との意見交換会

浮上式も採用なし

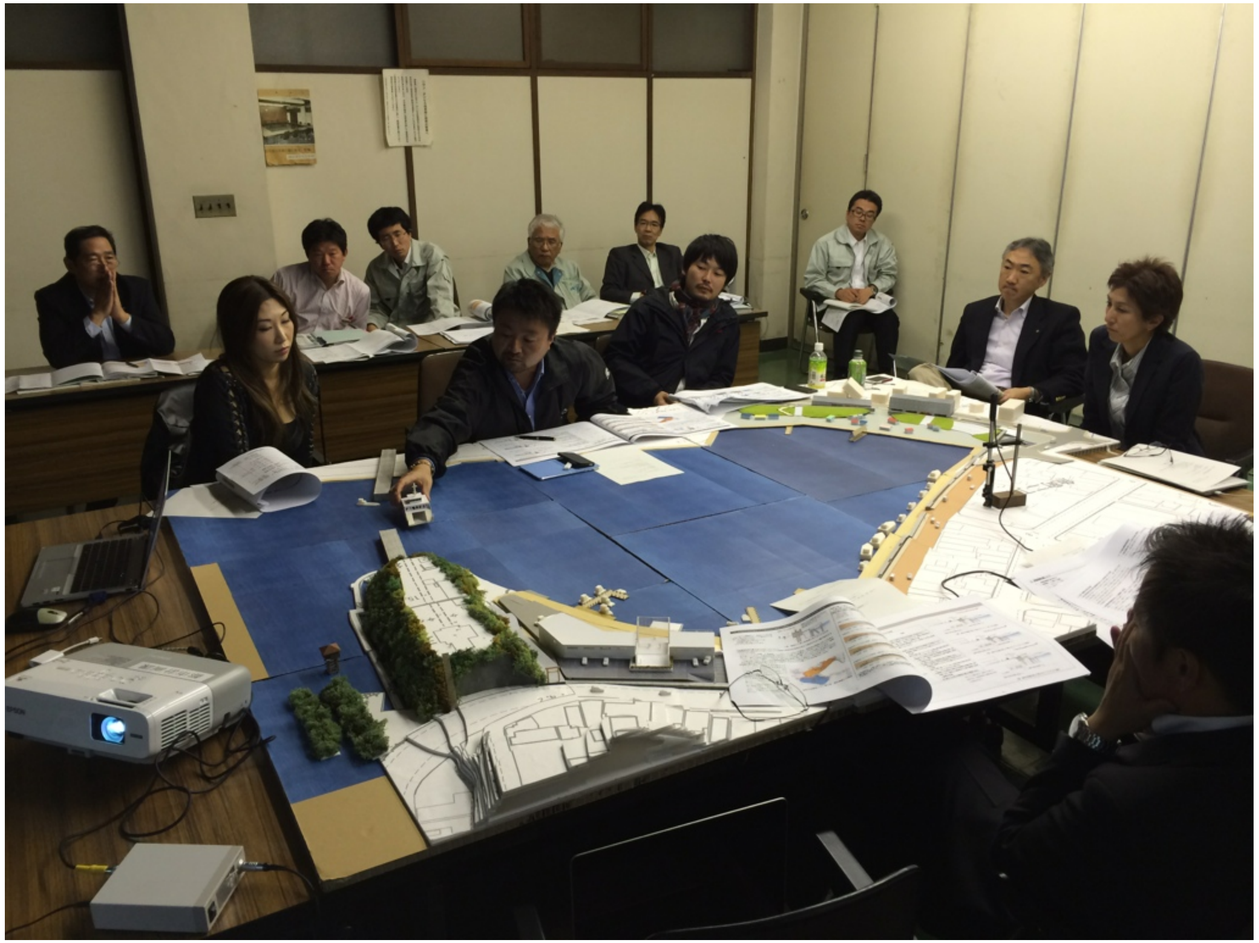
気仙沼商工会議所の臼井賢志会頭の知事要望がきっかけで実現。地元からは、明治三陸級のレベル1津波を防ぐ防潮堤計画で議論が続いている内湾地区の関係者、「防潮堤を勉強する会」の発起人ら約50人が出席した。

意見交換は非公開で行われたが、出席者によると、防潮堤を勉強する会が提出した質問書に対し、まずは県側が回答。地域が合意したと判断する根拠について、「地域の総了解したところを『意形成』と判断したものの、個人的に同ているケースも最終的には知事の決める」との説あった。建設用地制執行の可能性もしなかったという

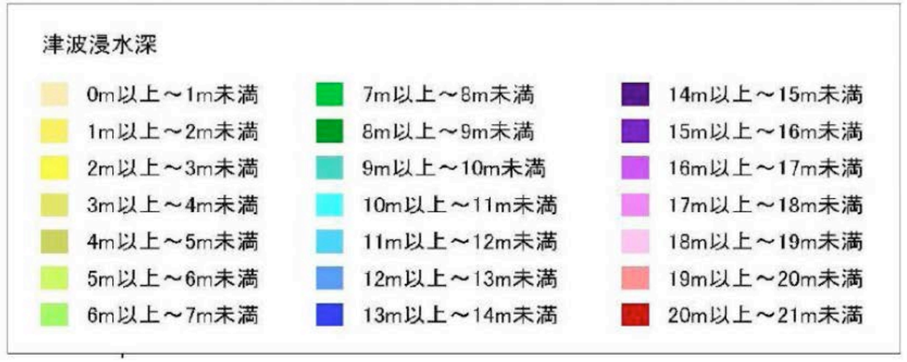
説明会の周知計画高設定の前なった津波シミションの条件やどの質問にも口頭答した。シミションについてごとに分かりやすて文書で提示するを約束した。

その理由として、
防潮堤によって港町の魅力が失われたら、生業（水産、観光）が続けられない。命は、防潮堤ではなく避難路で守れる。

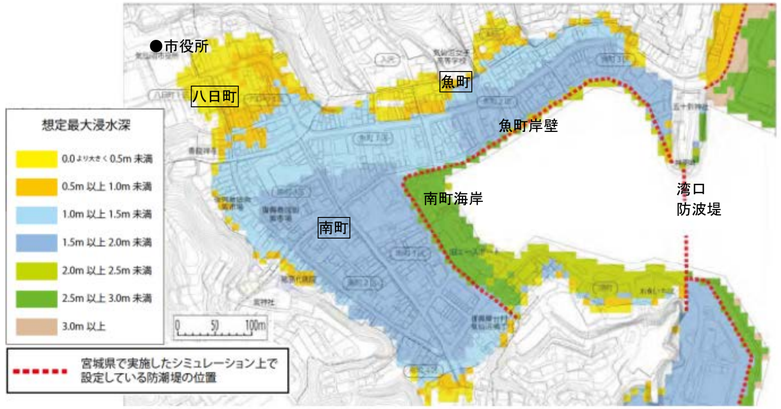
模型を使ったワークショップで、防潮堤のアイデアを出し合い、ウォーターフロントのデザインを検討した。



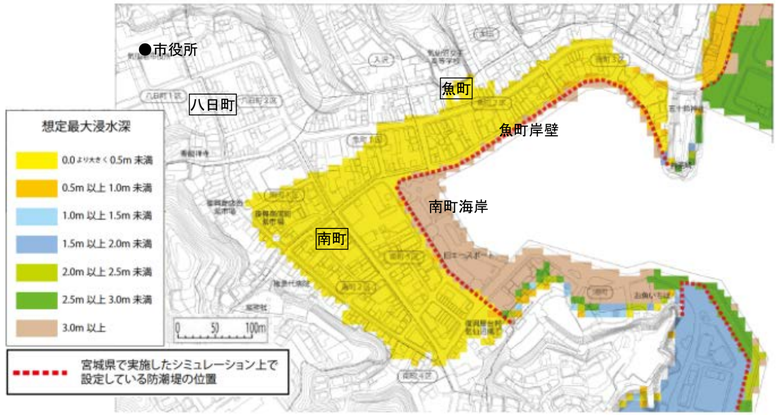
当初、県によるシミュレーション結果は開示されていなかった。協議を進める上で何度もやり直しを提案。



出典：気仙沼市コンペ要項より



TP 3.8m の防潮堤の場合の想定浸水深



TP 5.1m の防潮堤の場合の想定浸水深

出典：内湾地区復興まちづくり協議会資料

市民が納得いくまで防潮堤のデザインとまちづくりを検討

防潮堤の高さを低減させた。
県、市、まちづくり会社が調整し、斜面緑地と観光施設で防潮堤を挟み込んだ。

海とまちが一体となったウォーターフロントの景観

写真提供：かとうまさゆき写真事務所

海とまちを断絶しかねなかった防潮堤計画でしたが、最終的に、海とまちをシームレスにつないだ空間をが実現

津波を防ぐための防潮堤を、市民や観光客が集まる広場へ

斜面緑地や階段は、あくまでも避難施設として整備

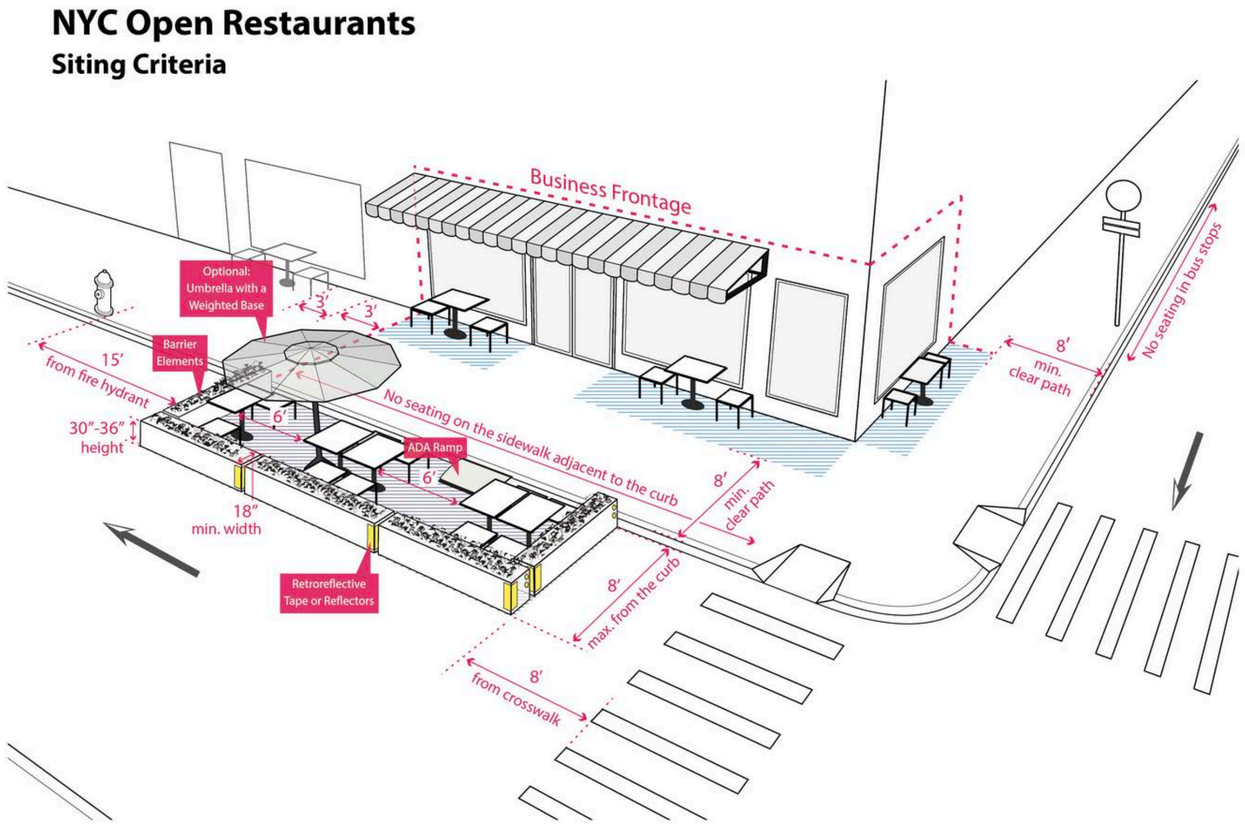
でも、ふだんは、市民や観光客のための公園として利用

防潮堤を観客席に使って野外コンサート

防潮堤の壁面を使ったイベントアート

使うのは市民。市民が公共空間をデザインする時代に

ウィズ／アフターコロナにより、屋外空間の活用が進む？



引用：まち座（学芸出版社）ホームページより

米ニューヨークのデブラシオ市長は７日、同市の新型コロナウイルス禍からの再起を記念し、８月にマンハッタンのセントラルパークで大規模コンサートを開催する計画を発表した。写真は５月２３日撮影（２０２１年　ロイター/Caitlin Ochs）

NYでは、コロナ対策として、道路空間をテラス席として利用したり、セントラルパークでは大規模コンサート。

ウィズ／アフターコロナにより、道路が変わる

国土交通省

新型コロナウイルス感染症の影響を受ける飲食店等の皆様へ

地方公共団体等と連携して申請すると

テイクアウトやテラス営業などのための道路占用の許可基準を緩和します

国土交通省では、新型コロナウイルス感染症の影響を受ける飲食店等の皆様を支援するための緊急措置として、地方公共団体と地域住民・団体等が一体となって取り組む沿道飲食店等の路上利用の占用許可基準を緩和することとしました。

また、地方公共団体に対しても同様に取り組んでいただけるよう要請しています。

イメージ（佐賀県より提供）

今回の緊急措置のポイント	
内容	① 新型コロナウイルス感染症対策のための暫定的な営業であること ② 「３密」の回避や「新しい生活様式」の定着に対応すること ③ テイクアウト、テラス営業等のための仮設施設の設置であること ④ 施設付近の清掃等にご協力いただけること

引用：おおみやストリートテラス（UDCO 新津瞬さん）

国交省がテラス席の利用の際の許可基準を緩和。時限的な仕組みが「歩行者利便増進道路＝ほこみち制度」へ

ウィズ／アフターコロナにより、道路が変わる

◆道路の景色が変わる　～５つの将来像～

①通勤・帰宅ラッシュが消滅

- テレワークの普及により通勤等の義務的な移動が激減
- 居住地から職場までの距離の制約が消滅し、地方への移住・居住が増加

②公園のような道路に人が溢れる

- 旅行、散策など楽しむ移動や滞在が増加
- 道路がアメニティ空間としてポテンシャルを発揮

③人・モノの移動が自動化・無人化

- 自動運転サービスの普及によりマイカー所有のライフスタイルが過去のものに
- eコマースの浸透により、物流の小口配送が増加し、無人物流も普及

④店舗(サービス)の移動でまちが時々刻々と変化

- 飲食店やスーパーが顧客の求めに応じて移動し、道路の路側で営業
- 中山間地では、道の駅と移動小型店舗が住民に生活サービスを提供

⑤「被災する道路」から「救援する道路」に

- 災害モードの道路ネットワークが交通・通信・電力を途絶することなく確保し、人命救助と被災地復旧を支援

公園のような道路

マイカーを持たなくても便利に安心して移動できる
モビリティサービス

店舗（サービス）の移動

国交省の道路部局が作成したパンフレット。道路に車以外の人やスモールモビリティが描かれている。

ウィズ／アフターコロナにより、駅前広場が変わる？

阿部研究室の「パブリックハック」の取り組み

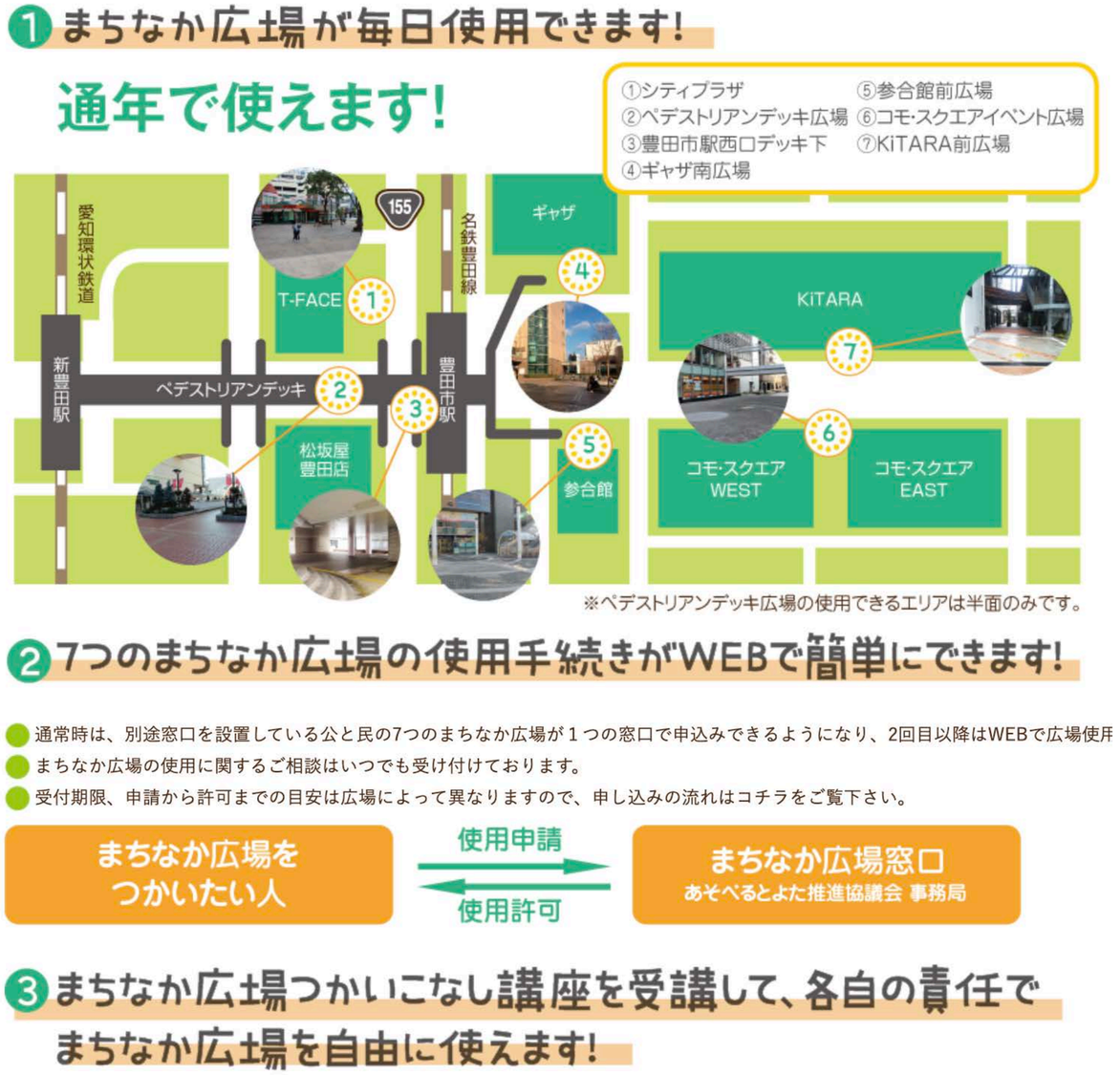
公共空間において、個人が自分の好きなように過ごせる状況が実現すること。賑わいづくりとは異なる、そのまちらしい魅力をもたらす。

（引用：笹尾和宏さん）

ウィズ／アフターコロナにより、駅前広場が変わる

引用：あべるとよたプロジェクト（園田聡さん）

駅前広場をシェアスペースへ



一方、なかなか変わらない日本の公園

- 植物の採取や竹林の伐採
- 犬や猫などのペット類を連れての芝生・日本庭園への立ち入り
- ゴミやそれに類するものの投棄や放置
- 火気（焚き火、花火、火遊びなどの）使用
- 騒音、異臭を発生させたり、風紀を乱す行為
- 立ち入り禁止区域に立ち入ること
- 貼り紙等の広告物の表示
- 土地の地形を変更する行為
- 他の利用者に危険や迷惑な行為
- 許可車両以外の通行

→芝生にペットはNG

→BBQは、NG

→キャッチボールは、NG

→飲み会、イベント、コンサートはうるさいので迷惑？

→宿泊（キャンプ）は？

→自転車は？セグウェイは？

日本の公園は、禁止ルールが多くて、使い勝手が悪い。緊急事態宣言明けも、誰も使っていない。。。

ウィズ／アフターコロナにより、空き地が変わる

カナドコロ（工学院大学遠藤研究室）

引用：新津瞬（UDCO）

空き地や駐車場のほうが、オーナーの了承を得られれば、自由に使える。

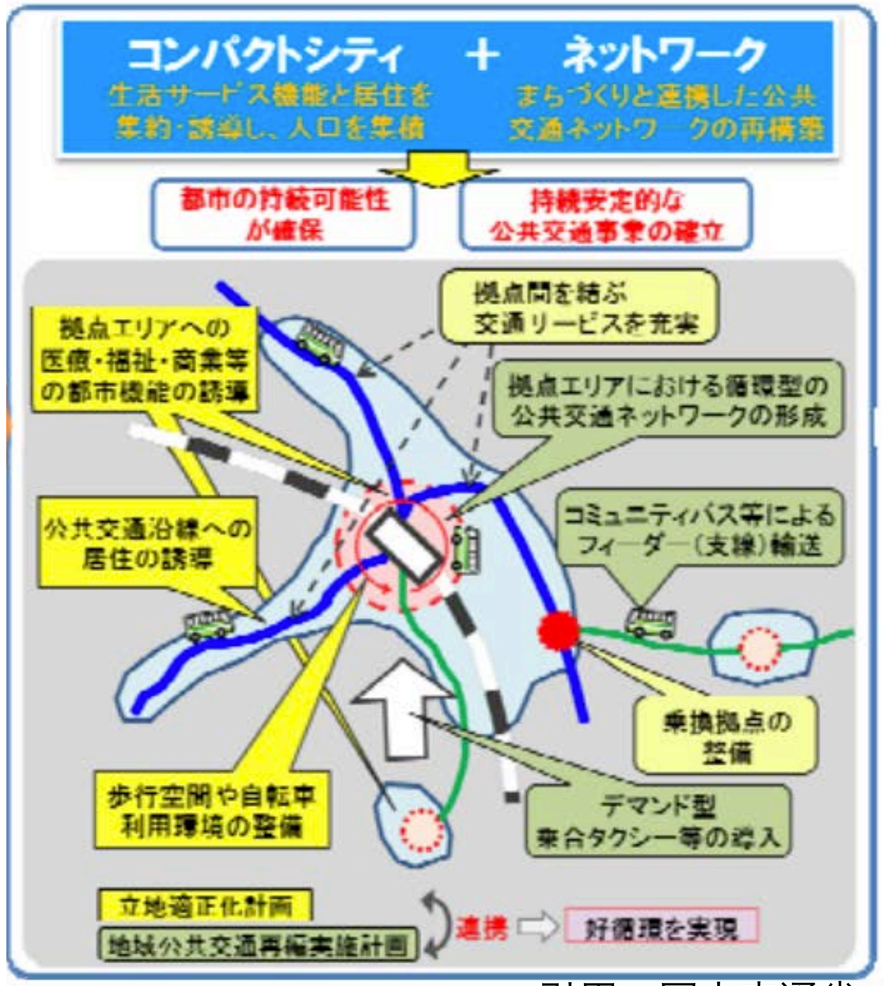
人口減少で、土地余ってくる時代。公園だけでなく、空き地や空き家も自由に使える場所になるのでは？

それでも諦めないで、公園を変える！！

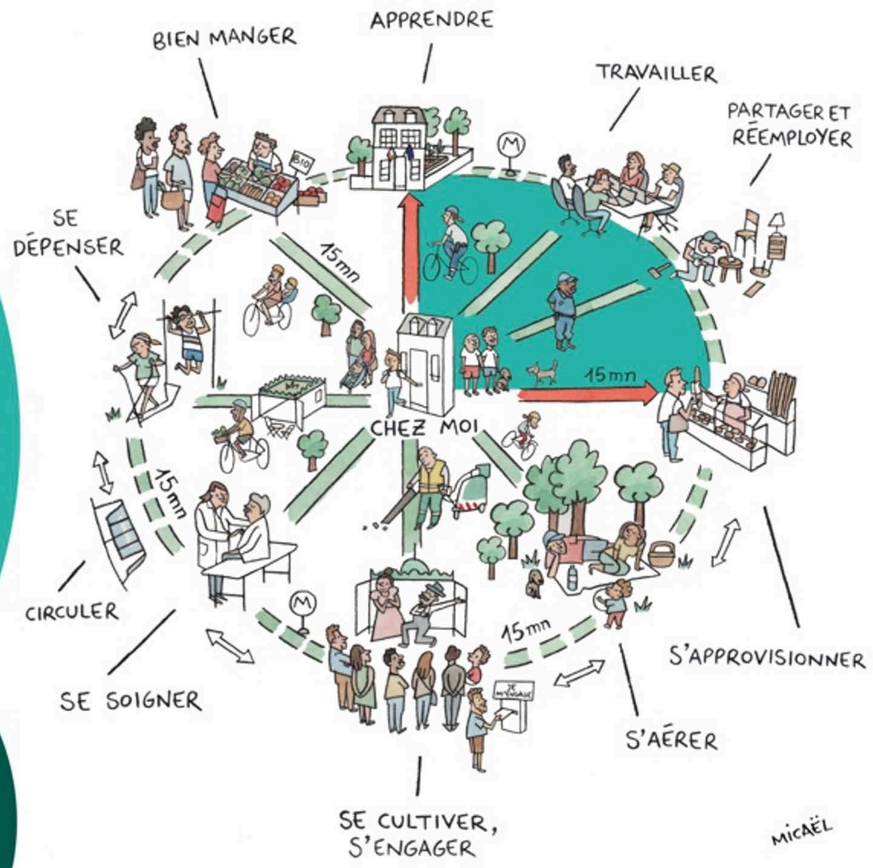
パブリックハック＠某公園

駅前広場だけでなく、公園でも何ができるのか？どこまでできるのか／できないのか？を試してみる。

ウィズ／アフターコロナにより、都市構造が変わる



引用：国土交通省



引用：パリの 15min City

日本はコンパクトシティが標榜されていたが、最近は、コンパクト＋ネットワーク？？？
コンパクトの中身をきちんと考える。公共交通の利用を促進させると健康になるといるデータもある

ウィズ／アフターコロナにより、地方への移住は進むのか？

引用：神山町ホームページ

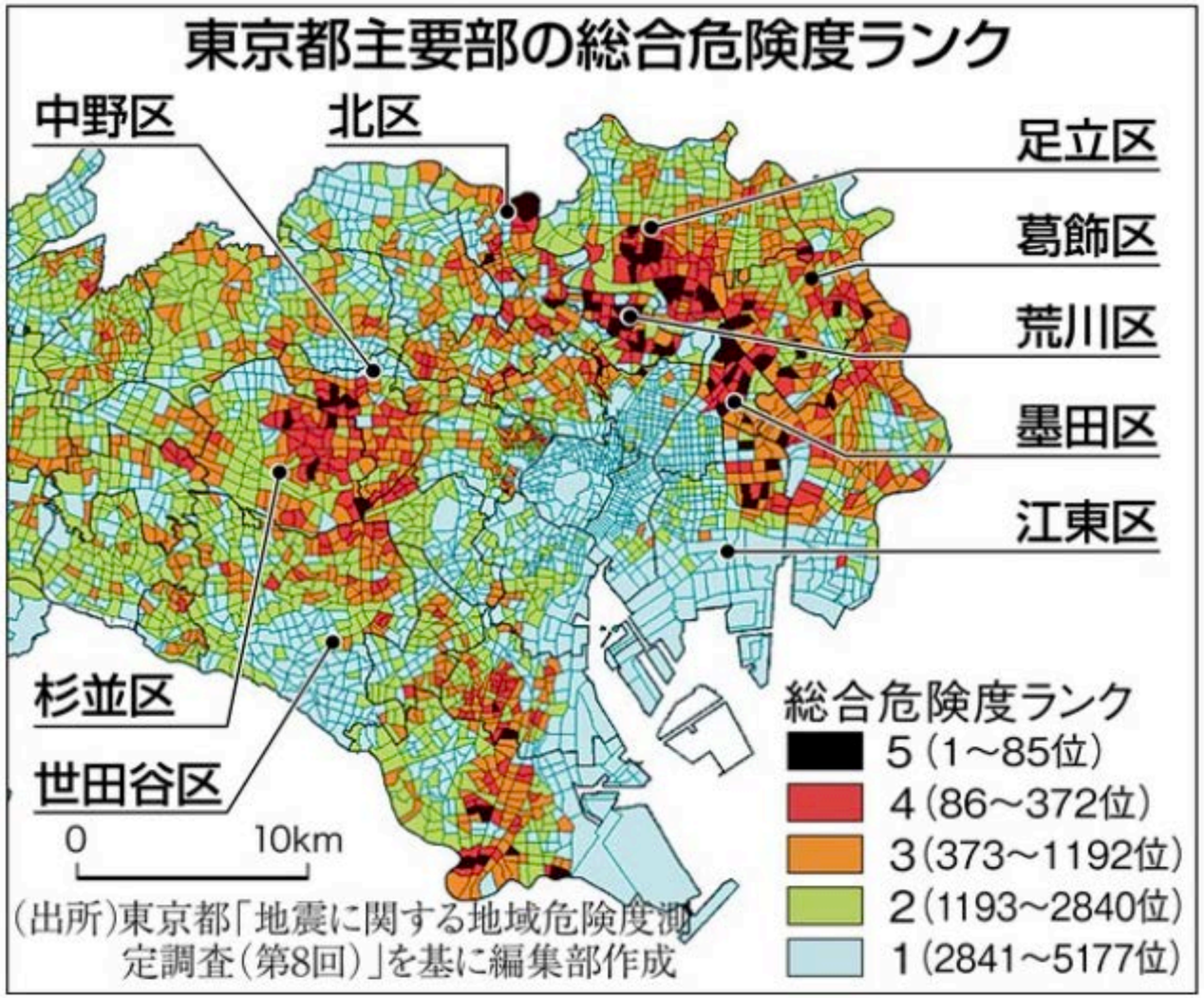
「ITベンチャー企業のサテライトオフィスに選ばれたまち」として有名な徳島県名西郡神山町。
人口減少が進み、郊外や地方が淘汰される中で、神山町のような尖ったまちが残る。

Society5.0により、都市の未来が予想できるようになる？

引用：国土交通省 PLATEAU 3Dモデル導入のためのガイドブック

３D都市モデルの情報がオープン化され、サイバー空間で未来のシミュレーションができる。

すでに東京都から、危険度ランキングが示めされている

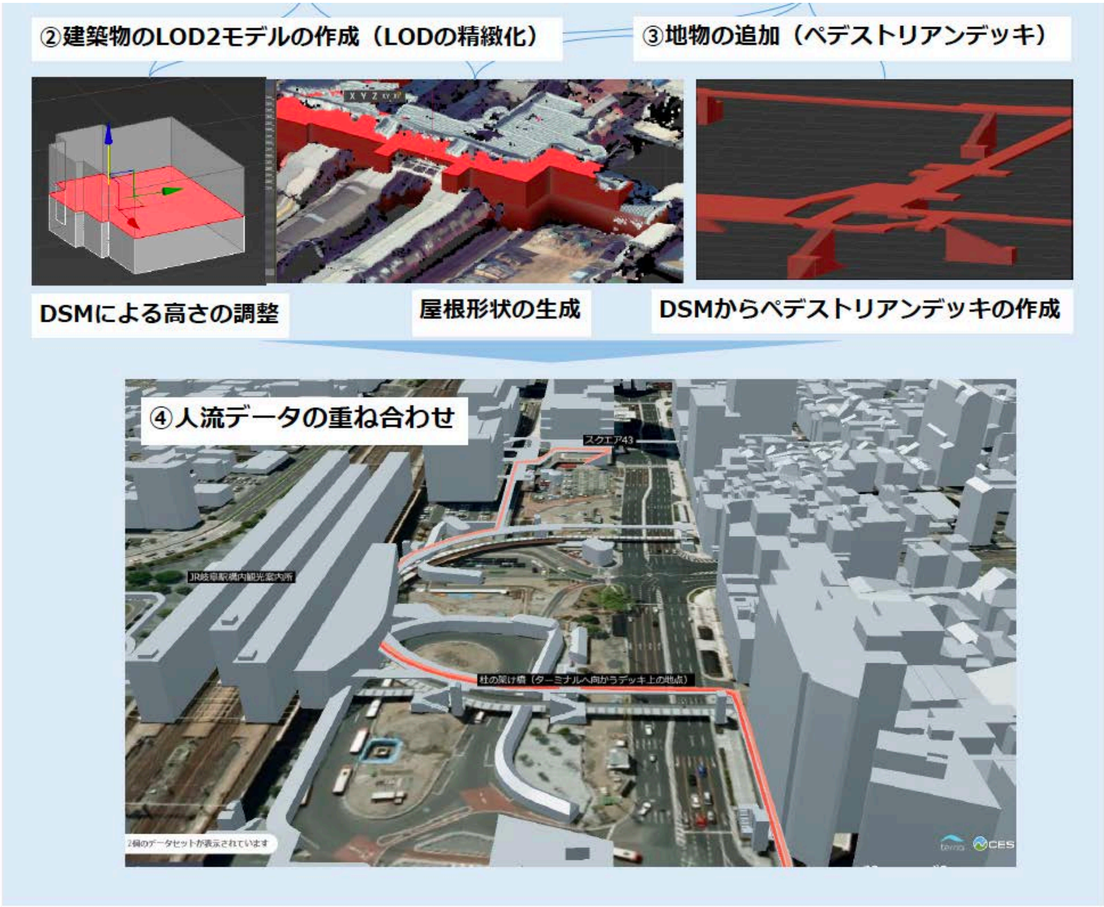


東京で最も地震に脆弱な地域ランキング（N＝5,177町丁目）

区市町名	町丁目名	地盤分類	建物倒壊危険度			火災危険度			災害時活動困難度			総合危険度		
			危険量	順位	ランク	危険量	順位	ランク	困難度	順位	ランク	危険量	順位	ランク
荒川区	町屋4丁目	沖積低地4	19.74	8	5	35.76	6	5	0.32	124	4	17.76	1位	5
足立区	千住　柳町	沖積低地4	21.37	5	5	55.83	1位	5	0.2	782	3	15.54	2位	5
荒川区	荒川6丁目	沖積低地3	16.41	24	5	36.54	5	5	0.24	455	3	12.52	3位	5
足立区	千住　大川町	沖積低地4	17.04	20	5	41.68	4	5	0.21	682	3	12.36	4位	5
墨田区	墨田3丁目	沖積低地4	19.54	11	5	43.28	3位	5	0.19	893	3	12.13	5位	5
北区	志茂4丁目	沖積低地5	12.06	111	4	28.61	14	5	0.3	181	4	12.12	6位	5
墨田区	京島2丁目	沖積低地4	28.88	1位	5	55.59	2位	5	0.13	1937	2	11.01	7位	5
江東区	北砂4丁目	沖積低地5	15.8	28	5	20.9	23	5	0.27	277	4	9.86	8位	5
大田区	羽田6丁目	沖積低地4	16.48	23	5	28.83	13	5	0.21	652	3	9.68	9位	5
足立区	千住　元町	沖積低地5	12.76	85	5	33.86	7	5	0.2	855	3	9.13	10位	5
足立区	柳原2丁目	沖積低地4	22.12	4	5	29.44	12	5	0.18	1129	3	9.05	11位	5
墨田区	押上3丁目	沖積低地4	15.32	34	5	33.72	8	5	0.17	1217	2	8.3	12位	5
墨田区	東向島1丁目	沖積低地4	19.19	12	5	29.81	10	5	0.16	1425	2	7.66	13位	5
大田区	羽田3丁目	沖積低地3	15.2	39	5	28.6	15	5	0.17	1163	3	7.6	14位	5
墨田区	八広3丁目	沖積低地4	15.36	31	5	26.58	18	5	0.18	1111	3	7.42	15位	5
江東区	北砂3丁目	沖積低地5	12.98	76	5	26.96	17	5	0.18	1102	3	7.08	16位	5
足立区	千住　龍田町	沖積低地4	16.52	22	5	22.47	21	5	0.18	1103	3	6.91	17位	5
北区	志茂5丁目	沖積低地5	10.33	199	4	26.15	20	5	0.19	990	3	6.76	18位	5
荒川区	荒川3丁目	沖積低地3	13.35	68	5	17.97	30	5	0.21	663	3	6.64	19位	5
足立区	関原2丁目	沖積低地5	15.31	35	5	18.13	28	5	0.19	901	3	6.43	20位	5
葛飾区	東四つ木3丁目	沖積低地4	12.81	82	5	27.91	16	5	0.16	1428	2	6.37	21位	5
大田区	西蒲田4丁目	沖積低地3	10.7	170	4	7.27	140	4	0.34	93	4	6.15	22位	5
荒川区	南千住1丁目	沖積低地4	20.55	6	5	19.47	25	5	0.15	1479	2	6.13	23位	5
足立区	関原3丁目	沖積低地5	13.82	61	5	14.17	45	5	0.22	606	3	6.09	24位	5
荒川区	西尾久6丁目	沖積低地3	10.34	197	4	12.03	56	5	0.27	270	4	6.04	25位	5
北区	岸町2丁目	沖積低地2	15.14	40	5	11.18	63	5	0.23	513	3	6	26位	5
足立区	中川2丁目	沖積低地5	11.25	148	4	9.03	100	4	0.3	186	4	5.99	27位	5
足立区	本木　北町	沖積低地4	10.65	174	4	10.35	80	5	0.28	231	4	5.89	28位	5
墨田区	墨田5丁目	沖積低地4	12.57	94	4	11.42	60	5	0.24	457	3	5.66	29位	5
足立区	千住　寿町	沖積低地4	19.56	10	5	26.34	19	5	0.12	2112	2	5.63	30位	5

ハザードマップによって、土地の価値が下がるので昔は公開されていなかったが、今は、
詳細なシミュレーション結果が公開されている。これらを使って、住民が安全で魅力的なまちを考える時代。

交通のシミュレーションと自動運転の技術の進展による都市への影響は？



引用：国土交通省 PLATEAU 3Dモデル導入のためのガイドブック

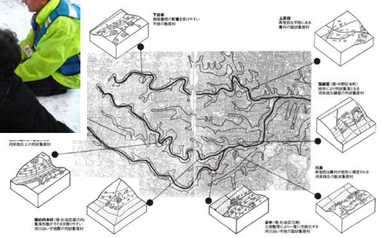
交通のシミュレーションにより、不要な道路や駐車場が見えてくる→歩行者の居場所が増える。
自動運転が進むことにより、道路に車が溢れる可能性もある？？？→地球環境問題の悪化？

コミュニティの情報もデータベース化されて自由に入手できる？

「まちづくり電子絵本」による、コミュニティの地域力の向上を図るためのプログラム開発

大学による「まちづくり支援技術」の研究を発展させ、地域コミュニティが主体となり、まちの将来の目標像と、それを実現するためのシナリオを描くためのプログラムを開発します。その目標像とシナリオに関する情報を多様な主体が閲覧・共有できる「まちづくり電子絵本」として整理し、これを用いることにより、東京都が地域コミュニティ・大学・区市町村と連携し、地域力の向上を図り、コミュニティベースで政策（防災・安全安心社会・公共施設の有効活用及び再生など）を実行することができます。

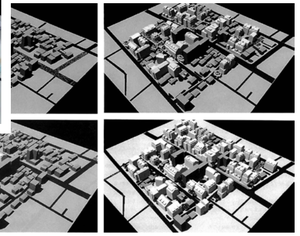
地域資源・アーカイブ（歴史、文化、生活など）



歴史・地形などの
地域文脈アーカイブ

まちあるき・
地域資源の収集
ワークショップ

まちの将来の目標像とシナリオ



まちの目標像と
シナリオ（3次元CG）

模型を使った
デザインゲーム

映像、イメージスケッチ、模型写真、3次元CGなど

データベースに情報を蓄積し、「まちづくり電子絵本」として、
地域内外の多様な主体（地域住民、NPO、外国人、多世代など）が閲覧・共有できるシステム

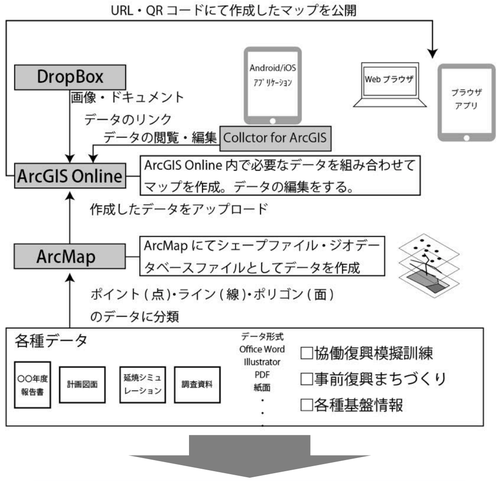
パソコンやタブレット等の
情報端末で閲覧可能に

事前復興まちづくりGISデータベース

復興模擬訓練や事前復興まちづくりの成果を、災害時の復興まちづくりの目標像の合意形成に確実に活かすため、地理情報システム（GIS）を用いてデータベース化し、発災前と発災後のまちづくりを連続的に進めるためのシステムを、大学で開発しています。

◆閲覧画面（例）

◆事前復興データベースの構造



開かれたまちづくりの情報共有ツールの必要性

引用：早稲田大学都市・地域研究所

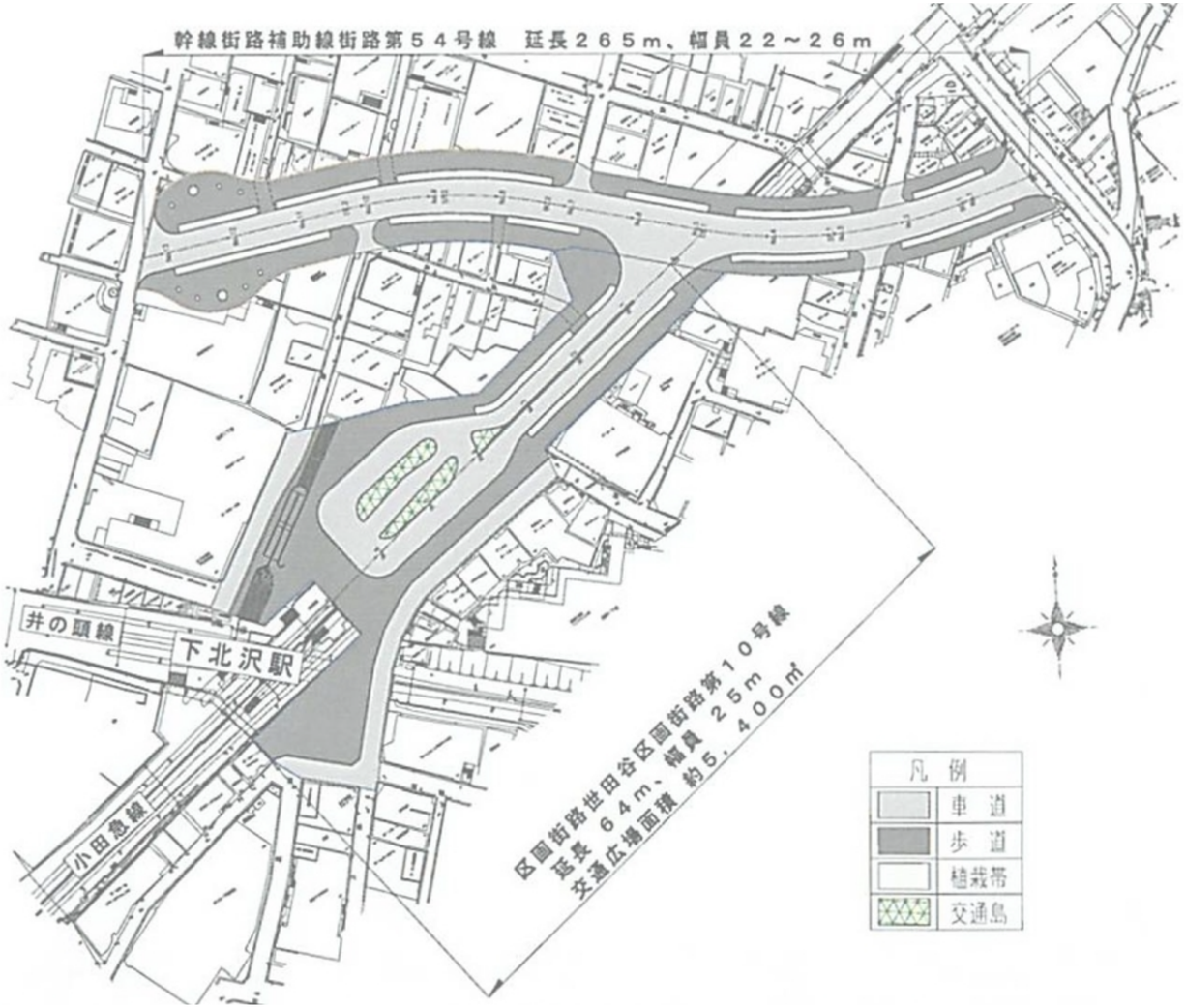
地域コミュニティの情報、それをもとに作成した未来のまちのイメージをデータベース化して、災害時に活用できるような試み。（ただし、個人情報の課題をどのようにクリアするのか）

１００年前に制定された都市計画法をまだ使っている

都市計画法は、成長時代における都市開発とコントロールのために作られたもの。

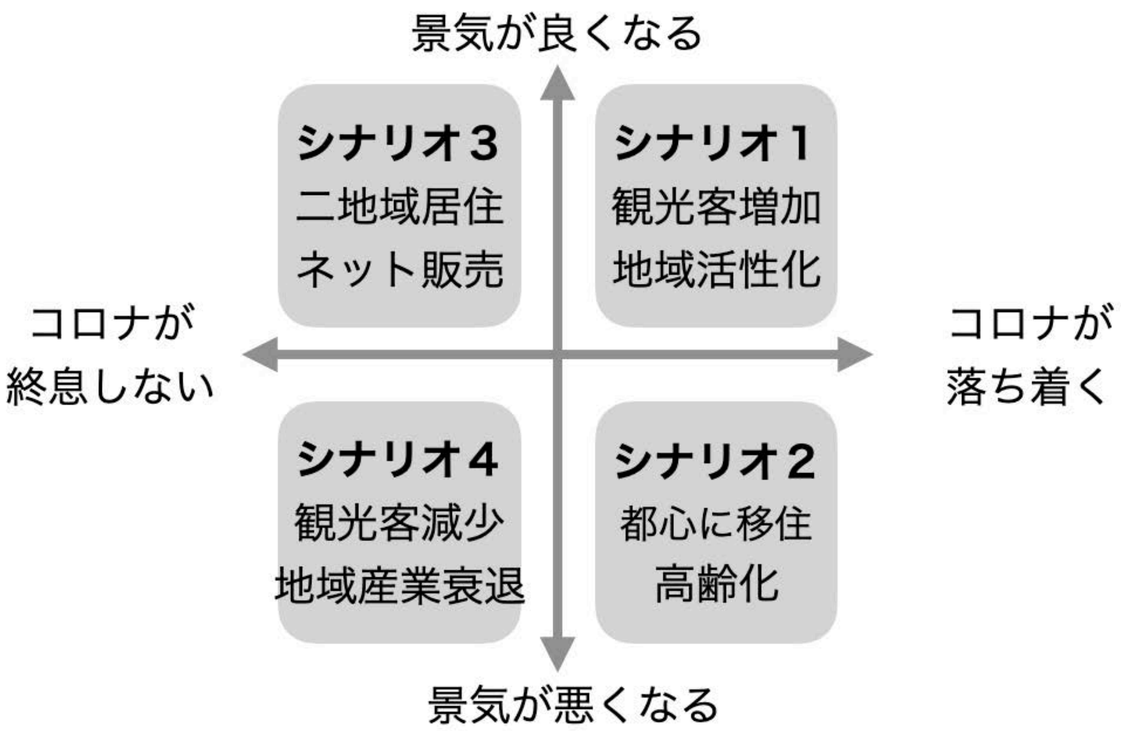
果たして、縮小時代の役に立つのか？→地方都市で、昔の道路拡幅計画にお金をかける必要があるのか？

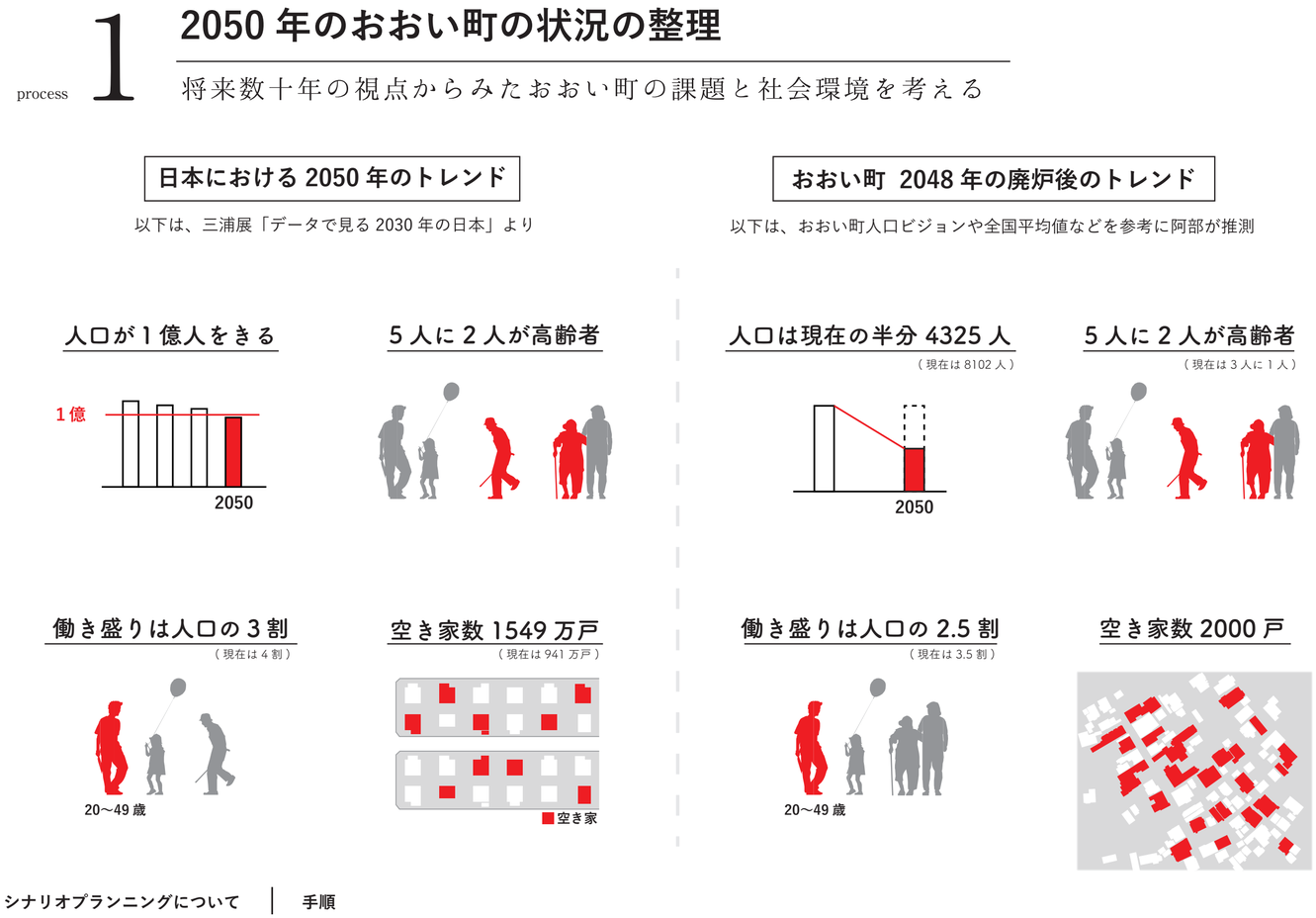
下北沢では、都市計画道路や駅前広場の整備によって「シモキタらしさ」が失われてしまった。



新しい都市計画法に転換する時期が来ている！！

先が見えない時代だからこそ、未来を描くことが大切

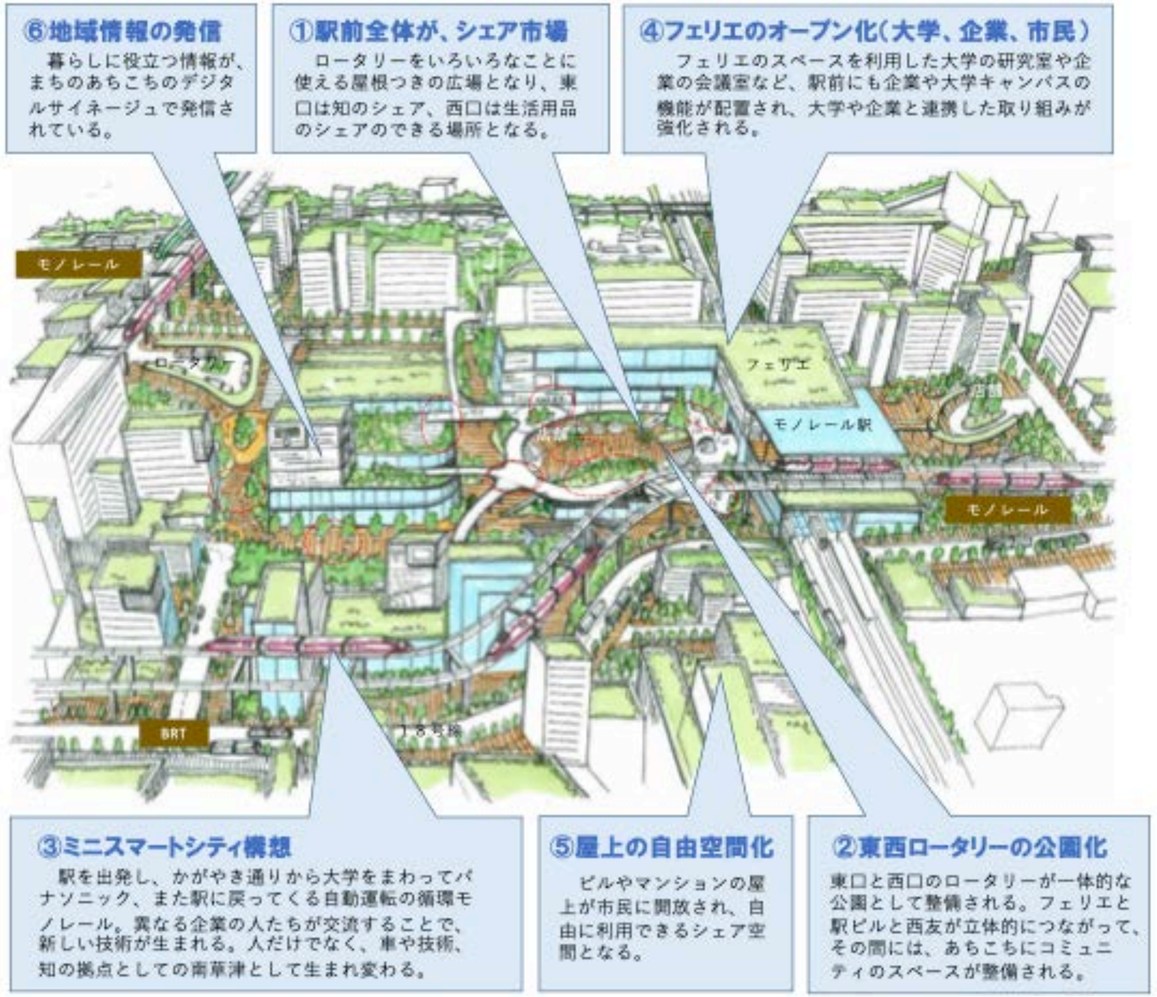




これまでの都市マスタープランは、５年もしくは１０年ぐらい先を目標に策定されてきた。

固定観念を取り払うためには、３０年後の望ましい未来の選択肢を描き、そこからバックキャストする。

アーバンデザインセンターびわこ・くさつでは、２０４０年のまちの未来を描くワークショップを実施。



ローカル／グローカル、個人／シェアのバランスを市民が選択することになる。

最悪な未来に向かわないように、望ましい未来に向かうためのまちづくりがスタートしている。

まとめ

１．使うのは市民。市民が公共空間をデザインする時代

→アフターコロナでは、ますます屋外空間利用が促進されて、市民が主体となって道路、駅前広場、公園、空き地を自由に使えるようになる。駅中心のまちづくりとは限らず、地域の拠点（公園、水辺、スポーツ施設、コミュニティ施設）を中心とした構造へ。

２．郊外や地方が淘汰される。尖ったまちが残る時代

→コロナ禍により、三密を避けられることと、リモートワークの普及により、郊外や地方への移住が進むという見方がある。一方、アフターコロナでは、その反動でますます都心回帰が進むという２つの見方がある。いずれにせよ、人口は減っているので、都心も地方も、尖ったまちしか生き残れない。

３．まちの未来を予想ができるようになる時代

→３D都市モデルの情報公開など、デジタル化・オープン化が進んだまちほど、シミュレーションが進み、未来を予想できる。すなわち、そのようなまちでは、災害危険エリアや交通環境を予測できるので、多くの市民が最適な居場所を選択することができる。
→一方で、個人情報の問題など、情報公開進むことに不安を感じる市民もいる。デジタル社会においても、ローカルなコミュニティの重要性は変わらない。

４．縮小時代が始まり、まちづくりの常識も変わる時代

→我が国では、１００年前につくられた成長期のための都市計画法をまだ使っている。固定観念にとらわれて、当面の課題解決だけに終始すると、良かれと思って実施した政策や都市整備が、数十年後に市民の価値観とはズレたものになる。それらは負の遺産となってしまう。
→先が見えない時代だからこそ、望ましい未来を描く必要がある。そのバックキャストによるまちづくりを推進する時代。